

今回は、特別養護老人ホームやわらぎ苑の遠藤正子苑長にお話を伺いました。女性らしい細やかな心配りのお話をお聞きすることができました。



やわらぎ苑
遠藤正子苑長

インタビュー

本日は大変お忙しい中お時間を頂きましてありがとうございます。まず、やわらぎ苑様の施設の特徴について伺えますか。

遠藤苑長

開設して27年目になります。当時は、田んぼの真ん中に、ぼつんと建っていました。この辺りは岡田という地名で古墳、史跡があり、土器なども出まっています。建設には難航したと聞いております。その様な地に、理事長の父親が土地を寄贈してくれまして出来た施設です。草津で初めての社会福祉法人（特別養護老人ホーム）です。当時は、田舎の静かな環境の中の施設でしたが、それから四半世紀

余経ちまして、平成六年に南草津駅が出来ましたと同時に、立命館大学が来たり、マンションが沢山建って、瞬く間に都会になってしまいました。あつという間に都会の中の施設になってしまったというのが地理的な特徴です。自然はなくなっただけでもそれと引き換えに、駅前という最高の立地条件になりました。

もう一つの大きな特徴は医療との連携です。理事長の経営していただきます協力病院が近くにありまして、医療との密なる連携をしています。入所者様の介護度もさまざまです。ともすれば介護度の低い方を選びがちですが、重度の方も医療の方で即フォロー出来ますので、入所者を選ばずに困難な方も順番に入っていたいております。経管栄養の方が20%弱おいでになります。それに伴って看護師さんも定員より多く採用させていただいております。

その他、有難いことには、ボランティアさんには非常に恵まれていることです。創立以来長年に亘って来てくださっている個人、グループのボランティアさんには大

変有難く、感謝しております。シーズン交換、理容（年4回）、清掃苑内の買い物、手作りクラブ、生け花クラブ、かるた会、ドライブの付き添い等、まだまだ他にも多岐にわたって、ご援助頂いております。

「老人に幸せを、地域との和を」というわかりやすい言葉をしあわせ会の理念としています。



やわらぎ苑 玄関風景

インタビュー

次に、開設以来の喜びとご苦労というのはいかがでしょうか。

遠藤苑長

先ず最初に、大きな喜びとしては、平成17年に天皇陛下より県下の優秀施設として御下賜金

を賜りましたことです。記念に枝垂れ桜とソメイヨシノの苗木を買わせていただき、今年の春、開花しました。

もう一つの喜びは、新規の入所者の方が暫らく経つと落ち着かれて顔色も良くなられ、笑顔が見られるようになったこともうれしいことです。帰りたいと言われてた方が、ここが一番良いと言つて下さると、ああ、良かったなと思います。又、ご家族がお見えになった時に、「ここに入れて良かったです」と言っていたことも喜びです。

苦労は大小いろいろありましたが、現在もありますが・・・。私は、以前は福祉以外の仕事をしておりましてので、何も分からないまま、机上の勉強のみで、この職に就いたのです。ですから、当初は戸惑つことも多々ありましたが、先輩施設のベテランの職員さんに初歩的な事から親切に教えて頂き、とても心強く、ありがたかったです。

また、ある時期、業務員さんがいなくて、替わる職員も無く、私自身がなくてはならない日も何

回がありました。辛かったです。良い経験にもなりました。

その他、良い職員が結婚や、定年、そして病気などで退職されることも辛いことです。



御下賜金

インタビュー

次に、その他の業務で力を入れていらっしゃることはございますか。

遠藤苑長

医療と福祉の密接な連携です。そこは力を入れている部分です。理事長が「医療は進歩し、科学は永遠に変わらないけれども、福祉は制度が変わったら、福祉の現場まで影響するので、それに惑われないように、科学的根拠に基づいてやらなくてはならない」と言っております。私もそのように思っています。

また、職員の研修に力を入れております。新人、中堅、ベテランとレベルに合った外部の研修に積極的に参加してもらっています。研修を受けた人が今度は自分たちが講師になって月に一回、施設内で研修を行って来ています。朝の部と夜の部に分けてやっています。私も聴かせてもらっていますが、人に教えるには、よく勉強してからでないといけませんし、それは良いことだと思えます。これは職員自らが年間計画を立てて、行ってくれています。嬉しいことです。

私の悩みです。言われても言い返すわけでもないし、かきむしられたり、怪我を負ったりしても職員は辛抱して働いています。こうした職員の人権をどう守ってあげることが課題です。



お花見 帰帆島にて

インタビュー

今後、目指されている介護とはどういったものなのでしょうか。

遠藤苑長

家族の力というのは大きいので、施設でお預かりしていても家族との連携を密にしていかなないと駄目だと思っています。身寄りの無い方はしかたないですが、家族会を開いても、おいでになるのは四分の一くらいです。熱心な方は三人くらい兄弟で連れ立ってこられます。家族会でも苑がお膳立てする家族会ではなくて、苑が事務

局になるから家族でそういう会を結成して欲しいなと思って、最近の家族会で呼びかけました。そうしたら賛同された方が三人ほど残って相談されてきました。急には出来ませんが、積極的に苑に入ってきて頂きたいと望んでいます。

私たちが基本的な日常のお世話はきちんとさせて頂きます。心のケアもやっていますが、ご家族には及びませんので、家族の理解ということが大切です。そういうことを介護の中で取り入れることが介護の大事な部分かなと思っています。

インタビュー

今後の目標と課題は、どのようなことでしょうか。

遠藤苑長

どこの施設でもそうですが、待機者が300人ほどいらつしゃいます。複数の施設を申し込んでられると思いますが、地域の要望がとても多いので、それに添いたいのですが、今のスペースではとても出来ないの、増床が夢です。

たいものです。26年も経ちますと、毎日のように其処かしこが故障するのです。お風呂にしましても、昔は一般浴の浴槽は銭湯のように大きかったのですが、家庭風呂みたいな個浴に改修したいという思いがあります。

それともう一つはご家族との団樂のスペースです。今はホールをご利用いただいておりますが、プライベートスペースがあればもっと良いと思っています。

ソフト面では職員が夢を持って働ける職場にしたいということが目標です。よく勉強して頑張れば必ず報われるという夢を持たせてあげたいのです。それと職員の体も大切にしてもらわないといけませんので休養も大事なことです。他施設よりも年休を10日余り多くしています。職員数も手厚くしています。

インタビュー

今はどの施設様も職員さんの確保が一番の悩みです。

遠藤苑長

当施設はお陰様で、地の利が良いので、採用は比較的楽な方です。また、リタイアした職員が再就職

したり、近くの方が入職してくれています。看護師も定員以上に採用しています。



餅つき大会

インタビュー

近くにお住まいの方が働きたいとおっしゃるのは地元で施設が評判が良いということですね。特にこの地域は近くに新しい大型の商業施設が出来て、働く人の確保が大変な問題だと聞いておりますが、働く人に夢を持ってもらえるようにとのお気持ちが届いているのではないのでしょうか。

遠藤苑長

ありがとうございます。今後とも地域に愛される施設を目指して、努めていきたいと思っております。

インタビュー

長時間ありがとうございました。

